

Check

今月の栽培ポイント

4月

## 営農情報



詳しくはお近くの下記事業所までお問い合わせください。

東尾道営農センター ☎0848-56-1231

浦崎支店 ☎0848-73-3311

尾道北営農センター ☎0848-29-9611

御調支店 ☎0848-76-2242

向島営農センター ☎0848-44-2106

甲山支店 ☎0847-25-5035

因島営農センター ☎0845-25-6161

世羅西支店 ☎0847-37-7100

世羅営農センター ☎0847-25-5029

東生口出張所 ☎0845-28-0211

## 水稲

今年の田植えも間近となりました。健苗育成・適期移植と田植え前後の初期管理は、活着促進・初期成育の確保につながる重要な作業となります。天候や圃場条件に対応した的確な管理に努めましょう。

## 【代掻き】

代掻きは、田んぼの表面を柔らかく均平にして田植えをしやすくするとともに、作土の表面にある稲株・ワラ・雑草などを埋め込む、水持ちをよくし除草剤の効果を高めるなど、いろいろな役割を担っています。

畔からの漏水が気になる圃場では、代掻き前（入水前）に圃場の外周をトラクターで踏み固めてやりましょう。

代掻き作業の水深は、耕運した土壌が少し見える3〜5cm程度とし、均平に重点を置いて、練りすぎないようにしましょう。代掻きを過度に行うと通気性や透水性を損なう、根腐れなどの弊害を起し、生育不良に繋がりますので注意しましょう。

## 【移植】

## ◆箱処理剤

箱処理剤殺虫殺菌剤は、落着いて作業ができる田植え前日（剤によつてはもっと前に施用可能）に行いましょう。

また、毎年、箱処理剤と除草剤の1kg粒剤を間違えて使用する事故が何例か発生しています。除草剤が散布された箱苗は生育が見込めなくなりしますので、間違えないよう再度確認しましょう。

## ◆イオウ欠乏対策

近年、初期生育停滞の原因の1つとして、イオウ欠乏の発生があることが明らかになってきました。イオウ欠乏になると下葉から黄化し、酷い時には分げつが止まります。その後、生育の後半で窒素を吸収し、草丈が長くなり、倒伏の危険性が高まります。

対策の1つとして、田植え前日に「ダー

ウィン2000」または、「畑のカルシウム」を苗箱1箱当たり250g播いて、田植えをすることでイオウ欠乏症が軽減できます。

## ◆植付

①代掻き後、土が落着いてから移植します。代掻き後に初期除草剤を使用した場合は、散布から田植まで7日間空ける必要があります。

②植付け本数は1株あたり3〜5本としましょう。欠株を心配してそれ以上の本数で移植した場合、分げつ過剰となり、下葉枯れや倒伏のリスクが高まるので注意が必要です。

③欠株がひどいときには補植しますが、10株中に1株飛んでいたたり、1株に1〜2本しか植わっていないなくても、全体の収量には影響しません。

④補植後の置き苗はもち病の発生源となるので、速やかに圃場外へ出しましょう。

⑤植付け深度は、浮き苗防止や除草剤の薬害防止のため、3〜4cm程度で移植しましょう。

⑥株はりの良い品種、圃場環境では、圃場全体の風通しを良くするため、植付け間隔を広めにとりましょう。

## ⑦田植後の水管理

活着するまでやや深水で管理します。苗の水没には十分注意してください。

い。深水管理は、保温効果や風による蒸散から苗を守り活着を早めます。

## 【除草剤】

水持ちの悪い圃場は、初期剤と中期剤、場合によつては後期剤を使用する体系防除を実施してください。

田植えをした圃場で、活着の悪い圃場や植え傷みをした圃場では、除草剤の散布時期をずらし、苗の回復を待ってから作業してください。

## ◆注意事項

農薬登録内容の厳守はもちろんのこと、効果の安定・環境への影響軽減のために、農薬散布後は、必ず7日間止水しましょう。

## 柑橘

昨年度はハナムグリの被害が多く見られました。適期防除を心がけましょう。

## 【剪定】

労力的に作業実施が困難な方も、強い返り枝をノコで間引くだけで、薬剤がかりやすくなり、薬剤費の軽減と正品率向上を図ることができます。

八朔などで花母枝（団子花がついた枝）は切除しま



▲花母枝は枝の付け根から切除する

しょう。

## 【防除】

品種ごとに花の咲く時期が異なります。いしじやネーブルは開花が早く、清見やはるかばは開花が遅い品種です。適期防除を心掛けましょう。

### ◆ケムシの防除

ケムシが大量発生すると新芽や花を食害され、収量が著しく減少します。多発の場合は早めに防除しましょう。また、ケムシの発生源である園地周辺のアカメガシワは伐採しましょう。

### ◆コアオハナムグリ

花粉を求めて飛来し、花に潜り込み、爪で子房を傷つけます。晴天の日、気温の高い日に飛来が多く、花粉量の多い品種を好むので八朔、ブンタンなどは注意が必要です。

花上には午前8時頃から増え始め、10時から12時が最高となります。午後3時を過ぎると急に少なくなります。(花粉の多い品種は、夜間も樹上に留まる場合があります。)

そのため防除の時間帯は、午前10時頃が適期となり夕方は適しません。



▲ハナムグリ被害果  
(爪でひっかいたような傷が特徴)



▲コアオハナムグリ

### ◆ヒラタケシキスイ

花の蜜を求めて飛来します。ハナムグリと異なり終日花に寄生しています。爪で子房を傷つけます。

### ◆アザミウマ類

アザミウマ類も訪花害虫に含まれますが、花の時期以外にも果実に加害します。チャノキイロアザミウマの発生源は、マキなどの防風樹です。被害の深刻な園地は、マキを伐採し防風ネットを整備しましょう。

また、従来の薬剤が効きにくいミカンキイロアザミウマの被害も増えていますので注意してください。



▲アザミウマ被害

### ◆灰色カビ病

果実上に残った花びらにカビが生えて、果実に傷がつく病気です。本年度のみかんは、豊作樹が多いので注意が必要です。安政柑も被害の出やすい品種です。防除とあわせ、花びらを落としてやると被害が軽減できます。

### ◆かいよう病の防除

かいよう病を防ぐには、発芽前防除と展葉期の防除が重要になります。多発園

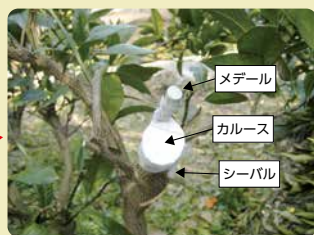
では5月下旬にも薬剤を散布しましょう。

## 【品種更新】

更新する際は、適地適作と労力を考えながら更新しましょう。(※しらぬひの高接樹は酸高が問題となるので推進していません。更新の際は苗木を植えましょう。)

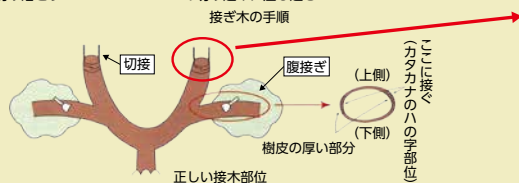
### ◆接木

接木更新は、結果するのが早いという



### 接木の方法

- ①中央の充実した芽を2〜3芽つけて穂木を切る。基部から3cmの位置をそぎ、反対側は30〜40度に1cm切り落とす
- ②幅を穂木の形成層の幅に合わせて台木に3cm切り込みを入れる。形成層どうしが一部で合わさるように穂木を台木の切り込みに差し込む
- ③接ぎ木用ビニールテープで接ぎ木部を固定し、メデールで穂木を覆う



利点と経済寿命が短いという欠点があります。

### ◎穂木の管理

剪定時(発芽前)に採穂し、葉柄を落とし黒ポリに包んで冷暗所で保管します。本年度は寒波被害を受けている場合があるので、暖かい園地で穂木を採取しましょう。



▲穂木  
写真は2芽で削っているが穂木が多くある場合は3芽で削ると必ず外芽が取れるので台木にさすとき穂木を選ぶ必要がなくなります。腹接ぎ用は上芽で1芽の穂木を使用します。

### ◎接木方法

#### ・腹接ぎ

枝を余り切らずに主に横枝に接ぐ方法です。樹勢が弱りにくい利点がありますが、誘引を怠ると樹形が乱れやすいので注意が必要です。

#### ・切り接ぎ

切り接ぎは主枝を切り詰め接ぐ方法です。そぎ接ぎと剥ぎ接ぎがあります。そぎ接ぎは技術が必要ですので剥ぎ接ぎをお勧めします。4月下旬ごろから皮が綺麗に剥けますので、剥ぎ接ぎが可能となります。

5月上旬を過ぎると活着が悪くなるので注意してください。

## 【花肥料の施用】

4月下旬から5月上旬にかけ、花の多い園地では硫酸を10アルあたり20kg施用しましょう。

## 【温州ミカンの摘蕾】

本年度の温州ミカンは、豊作の樹が多いと予想されます。豊作樹は摘蕾を実施し、隔年結果防止に努めましょう。

## 【苗木の管理】

植え付け1カ月後から肥料を施用します。フルーツ元気866の場合は、1本の樹に一握り程度を毎月10月まで施用します。苗木用1発肥料のエコロング413の140日タイプは、1本あたり140gを1回施用します。新梢が伸びている間は、アブラムシやミカンハモグリガ防除時に元氣一番とケルパックを混用散布しましょう。

## 落葉果樹

## 【共通の管理】

急激な温度上昇により生育が早まっています。管理作業の遅れが出ないようにご注意ください。

## ◆果実の肥大期（細胞肥大期）

多くの落葉果樹が果実肥大期にあたります。開花から約40日間は果実の細胞数が増える期間です。

貯蔵養分を無駄にしないためにも、房作りや摘粒（ぶどう）・摘果（桃・柿・梨）など着果量の調整は早めに行いましょう。これが高品質生産のポイントになります。

## ぶどう

## 【新梢伸長期～ジベ処理期～開花期】

### ◆誘引

新梢の先端を下げることによって、果房に流れる養分の量を増やし果粒肥大を促進させる効果があります。生育の早い新梢から順に誘引しましょう。

### ◆敷ワラ

早く敷くと、地温が上がらず、ほう芽が遅れ、霜害を受けやすくなるので、霜の心配がなくなってから敷いてください。

### ◆ジベレリン処理

展葉始めからの日数・展葉枚数等を参考に、花穂の進み具合をみながら処理をしていきます。特に、ジベ処理前後一週間の気象条件（温度・日照）が花穂の進みや実止まりに大きく影響しますので、注意して作業してください。

### ◆房づくり

果実肥大促進のため、早めに摘粒を行い、1房当たりの着粒数を適正になるようにしてください。

## もも

## 【摘果】

満開後40日頃から本摘果を行います。

### ・葉数による摘果の目安

早生…1果あたり40枚  
中生…1果あたり50枚  
晩生…1果あたり60枚

### ・枝による摘果の目安

短果枝…5本に1果  
中果枝…1本に1果  
長果枝…1本に2果

※急激な摘果は、生理落果（核割れ）の原因となるので注意してください。

摘果した果実は病気の原因となるため、園外へ持ち出してください。

乾燥が続く場合は、灌水を行いましょう。

## 【注意する病害虫】

アブラムシ類、モモチヨッキリゾウムシ、ケムシ類、カイガラムシ類、せん孔細菌病、灰星病、黒星病、うどんこ病、果実赤点病



▲モモチヨッキリゾウムシの被害果

## なし

## 【灌水】

開花から45日間は細胞分裂期にあたります。この期間の乾燥は小玉果の原因になりますので、乾燥させないように灌水をしっかりと行ってください。

## 【摘果】

果実肥大を目的として、変形果・病虫害被害果などを中心に摘果します。一度に終わらせようとせず、開花後数回に分けて行ってください。

## いちじく

新梢伸長期に入ります。

### ◆芽かき

いちじくは、すぐに樹冠内部が過繁茂になり、日照不足になってしまいます。熟期の遅れや着色遅れを引き起こすので、定期的な園内を回り、残す枝は1m当たり4～5本程度を目安に実施しましょう。

## ◆ねん枝・誘引

若木など樹勢が強い樹では、新梢が立ち気味になるため、樹形を整えるためにもねん枝・誘引を行いましょう。

また、主枝・亜主枝が直接日射を受けると、枝・幹の日焼けを引き起こすため、影になるよう誘引ヒモなどを使って誘引しましょう。

## ◆灌水

土壌の乾燥は生育不良の原因となりますので、乾燥が続く場合は灌水を行いましょう。

## ◆注意する病害虫

そうか病、ネコブセンチュウ、アイノキクイムシ、ケムシ類

## 家庭菜園

4月に入り気温も上がってきたことと思います。夏野菜の定植が4月の下旬頃から可能になります。タイミングを逃さないように作業を行いましょう。

## 【定植に向けた準備】

畑の準備が終わっていない方は、大急ぎで行いましょう。作業内容については、先月号を参考にしてください。実を収穫する野菜は、元肥を入れ過ぎないのがポイントです。

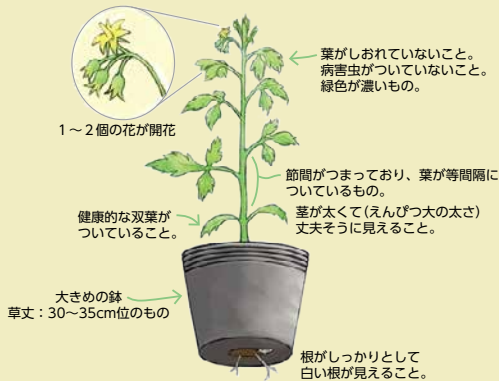
また、必要に応じて定植の1週間前までにマルチをしましょう。

## 【苗の選び方】

野菜は、苗半作と言われるくらい苗の品質に結果が左右されます。良い苗を選ぶには、いくつかのポイントがあります。例えば、花が沢山咲いたものは、定植時期を過ぎた老化苗となっており、植えても生育が劣り、収量も上がりません。

逆に小さく未熟な苗を植えてしまうと、茎葉ばかりが大きくなり、実が付かないといったことが起こります。

### 苗の選び方



1. 茎が太く、しっかりし全体ががっちりしていること。(軟弱に成長していないこと)
2. 節間が詰まっているもの。
3. 根の張りが良いもので、鉢ができるだけ大きいもの。
4. 病害虫に侵されていないもの。(特に葉の裏側のアブラ虫に注意)
5. 古い苗(老化苗)でないもの。特に下の葉が黄色くなっているものは避けましょう。
6. 葉が元気で等間隔についており、子葉がついているもの。
7. 茎や葉がしおれていないもの。

### 株間の目安

|        |                         |
|--------|-------------------------|
| トマト    | 35~45cm                 |
| ナス     | 55~65cm                 |
| ピーマン   | 55~60cm                 |
| キュウリ   | 40~50cm                 |
| オクラ    | 20~35cm                 |
| エダマメ   | 20~30cm<br>条間60cm(2条植え) |
| トウモロコシ | 28~30cm                 |
| カボチャ   | 1.2~1.4m                |
| スイカ    | 1.2~1.4m                |

後述の図も参考にして、植付け適期の苗を選ぶようにしましょう。

トマトやナスは、一番花が咲き始めた頃が植付けの適期です。キュウリやカボチャなどのウリ科野菜は、本葉が3枚ほど展開したら適期となります。

苗には接木苗と実生苗がありますが、家庭菜園では接木のおススメです。値段は高いですが、病気に耐性があるのので作りやく失敗のリスクを減らせます。

苗の生育具合によっては、早めに植える必要も出てきます。低温が心配な時は肥料袋などで苗を囲んだり、寒冷紗をかけるなどして保温してやりましょう。

## 【苗の植え方】

根鉢よりやや大きめの植え穴を掘り、そこにたっぷり水をやりまます。根鉢が崩れないよう丁寧に苗を置き、軽く覆土をします。接木苗の場合、接合部が必ず土の上に出るようにしてください。植付け後にも軽く灌水をしてやりまます。

その後は、しっかり活着するまで1週間程度は乾燥しないように水管理をしましょう。過湿になると弱ってしまうので、やり過ぎないように注意してください。

トウモロコシを植える場合は、結果を促すために最低でも苗を10本用意し、半分ずつ2列の畝に並べて植えるようにします。

## 【タマネギの収穫】

4月下旬~6月中旬にかけて、早生の品種から順番に収穫期を迎えます。畑を見渡して6割ほどの株が倒れた頃が収穫適期です。晴天が続いた日の午前中に収穫を行い、半日ほど畑に並べて水分を飛ばしてやりまします。

早生の品種は水分含量が多く、貯蔵には向かないので早めに消費し、晩生の品種は軒下に吊るすなどして保存します。

## 【ジャガイモの芽かき】

3月に定植したジャガイモから芽が伸びてきていると思います。芽の数が多ければイモの数は増えますが、養分が分散してしまい小さなイモになってしまいます。

イモの数と大きさのバランスを考えると、1株当たり3本程度の芽を残すのが適切です。元気のよい芽を残すようにして数を調整してやりまします。芽を引き抜く際は、種イモが持ち上がらないよう株元を掌で押さえ、捻りながら引き抜くとよいでしょう。